

令和3年度 高志中学校1年「高志学」校外研修（嶺南）

- 1 期 日 6月11日（金）
- 2 目 的（1）高志中学校生徒としての心構え、集団生活を送る上でのルールを学び、共に学ぶ仲間同士の人間関係を深める。
（2）ふるさと福井における自然や歴史を知る。
（3）事前・事後学習を通して、調査の仕方、レポートの書き方、発表の仕方について学ぶ。
- 3 場 所 若狭三方縄文博物館、福井県年縞博物館、金ヶ崎緑地
- 4 参加生徒 89名
- 5 引率教員 8名
- 6 報 告

午前中は、若狭三方縄文博物館と福井県年縞博物館を訪問しました。

[若狭三方縄文博物館]

鳥浜貝塚の出土品から縄文時代の鳥浜ムラの人々の生活を学ぶことができました。生徒は展示されていた土器、石器、木器、漆器などを真剣に観察し、もの作りの高い技術に感心していました。「縄文時代の道具には人を殺めるものがなく、みんな仲良く暮らしていた」という職員の言葉が印象に残りました。

火起こし体験では、火起こしの道具を使って、摩擦により火種を作ろうと奮闘していました。しかし、思い通りにきり杵（道具）を回転させることができない生徒が見られました。ようやく火種を作ることができた生徒は、「火を起こすのは大変で、昔の人の苦労がわかった」と感想を述べていました。



[福井県年縞博物館]

水月湖の湖底から発見された堆積層である年縞について学びました。1年間に降り積もる堆積物は0.7mmで、これが連続して7万年分の縞となって残っていたことに驚きました。年縞が残っていた理由は、水月湖に流れ込む大きな河川がなく周囲は高い山で囲まれていること、湖底の水には酸素が少ないため生物がほとんど生息していないこと、隣接する断層の影響で少しずつ湖底が沈み続けたせいで、湖底が荒らされずに済んだことが挙げられます。この年縞の発見によって、考古学、気候学、環境学、地質学、人類史、地球史の研究が大きく前進しました。「高志学」を学び始めた高志中1年生にとっては、学びを深掘りするきっかけになったのではないのでしょうか。



午後からは、敦賀の金ヶ崎緑地を訪問しました。

[金ヶ崎緑地]

金ヶ崎緑地から見える敦賀湾や敦賀ミュージアムの風景スケッチと俳句を作りました。生徒は日記を書くところからはじめ、日記の内容から俳句を完成させていました。生徒たちは完成した俳句を見せ合い、お互いの想いを共有していました。

